

社協松山支部は あいさつが飛び交うまちづくり を推進しています

日頃は、社会福祉協議会松山支部の活動に対しまして、皆さまのご理解、ご協力をいただき感謝とお礼申し上げます。

朝、どこの家庭でも「おはよう」の一言で一日が始まると思います。その一言で「今日も一日頑張ろう」なんて気分になりませんか？

日本の文化として「こんにちは！」「こんばんは！」「元気ですか！」「良い天気ですね！」日常的に何気なく簡単に交わしている言葉を私は“挨拶活動”だと思っております。

この言葉を掛けられると爽やかな気分になり、自分からも声を掛けたくくなります。挨拶活動と言うと、堅苦しい言葉ですが日常的に使われている言葉です。私は自治会の役員、子どもたちの見守り活動、花いっぱい委員等で子どもたちや近隣の方々と接する機会が多く、こちらから声を掛け、会話を交わすように心掛けています。

社協松山支部では地域福祉活動として平成28年から現在に至るまで活動が継続されています。標語ポスター、横断幕、学校訪問等でこれまで挨拶活動を推進してきましたが、もっと隣近所、身近な方と接して言葉を交わすことで会話が生まれ、情報交換の場を持つことで活動が継続されるものだと思います。

昨年の年末特別警戒活動の時、警察の方から「こちらから言葉を掛けることで“防犯活動”に繋がる」と話されていました。この“挨拶活動”が地域の皆さまのご協力ですらに前進するとともに我々も活動を推進してまいります。

社会福祉協議会松山支部 あいさつが飛び交うまちづくり実行委員長 若林 茂



【あいさつと防犯について】

特段の準備を必要とせず、地域で簡単に実施できて防犯効果のある方法が「あいさつ」だと言われています。

あいさつには、相手を見る、知る、というメリットがある反面、あいさつをきっかけとして事件などに巻き込まれることも否定はできません。とくに小学生などの子どもの場合には、やさしく声をかけられると知り合いだと勘違いしてしまうこともあるそうです。

相手を見分ける危機回避能力を子どもに学習させるには、親と子どもと一緒に地域活動などに参加するというのも有効な対策です。こうして地域の人と子どもが顔を合わせる機会を作っていけば、住人の中にどこそこの子という認識が生まれ、子ども側にも誰が住民かの認識を作ることができます。誰が知り合いで、知らない人なのか、といった判断が徐々にできるようになります。子どもに他人との付き合い方を学ばせる良い機会にもなります。

「いかのおすし」
知ってますか？

いかない のらない

おおごえでさけぶ

すぐにげる しらせる

第14回ふれあいの集い 参加ありがとうございました

ふれあいの集い当日10月29日（日）は天気にも恵まれ多くの地域の方に来場いただきました。ステージ発表・ボランティア団体との交流・お楽しみコーナー・屋外物販コーナー
多くの皆さまのご協力と参加で今年度も無事に開催することが出来ました。

ボランティア活動してみませんか？

ボランティア活動は誰かに強制されたり、義務で行ったりするものではなく、自分の考えで参加したり、取り組むものです。活動を通して、さまざまな問題に柔軟に取り組むことができたり、人の心に働きかける力を持っているとも考えられています。

募集中!



●社協松山支部は男性の地域活動への参加を応援しています。気軽に出るボランティア活動等地域活動に興味がある方を随時募集しています。「自分に何が出来るのかわからない」そんな人でもお気軽にお問合せください。